

90 ヤマコウラナメクジ

(コウラナメクジ科)

兵庫県ランク:A

Nipponolimax monticola

環境省ランク:NT

種の概要

北陸から山陰にかけての数百から1,000mほどの比較的標高の高い山地に生息し、極めて希産である。北陸や北近畿では標高の低い山地でも確認されているが、殻板の形状に若干の違いがあるなど、同種かどうかは今後の研究が必要である。体長30～50mmで、背面前方に楕円形の殻板を内在している。体色はやや紫がかった黒色をし、粘液光りが顕著である。殻板は白色を呈しやや透明感があり、長径4～6mm、短径2.5～3.5mm程度の楕円形をし、後端中ほどあるいは左寄りに核がある。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
				○	○		○

県内分布

香美町、篠山市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。篠山市(旧:多紀郡篠山町)天引峠が模式山地。記載以降、県内での採集記録がなかったものの、1993年に香美町村岡区(旧:美方郡村岡町)蘇武岳西面(標高900m)で1個体が確認された。しかし、その後20年間、現在に至るまで追加記録が得られていない県内で最も希産な陸生貝類である。

保護上の留意点

本種は、標高の高い原生林やそれに近い林床に生息することから、県内で有数な生息地と見込まれる但馬西部や南部、播磨北西部の原生林の存在する標高の高い山々での、植林や自然林の伐採に注意を払い、林床の草木を食い荒らすニホンジカの増殖を調整するなどの措置が必要であろう。



【執筆者】 増田修